ともづな

第３３号

発行 自由民主党 横浜市会議員団
編集 黒川まさる 政務調査事務所
045-781-9580
www.masaru-k.net

★★ともづな３３号・コンテンツ★★

●リーダーシップが分ける明暗　熊本地震被災地訪問
●横浜市から熊本への継続的な支援
●谷津町周辺の道路の拡幅・整備の詳細
●環状北線・北西線および帷子川を市内視察
●金沢区の中心部の将来に向けてやっておくべきこと

リーダーシップが分ける明暗

熊本地震の被災地を訪問

大西熊本市長は２週間風呂に入らないと人間はどうなるか初めて体験したと疲れも見せずに笑って話してくれました

４月 14 日、16 日の２回にわたり大きな地震が立て続けに起こり、その後も余震が続く熊本に６月末、黒川まさる市議は、以前に共同代表を務めた超党派の全国組織『ローカルマニフェスト推進地方議員連盟』の９人の有志の仲間とともに訪問・視察しました。

大西一史熊本市長も熊本県議の頃に同議員連盟の共同代表を務めており、黒川市議とは親友です。震災の翌日には黒川市議が呼びかけて２年前に熊本市長選挙を応援した議員連盟の有志でＳＮＳのグループを作成し、全国各都市の支援状況を共有し、支援物資を送ったり、他都市の支援状況を踏まえて議会から行政に働きかけたりと全国組織ならではの活動を展開しました。例えば四月末ごろ、余震が怖くて車で寝泊まりしている人が多いとの報道で「熊本がこんな状況なら県外で臨時的な移転先があると良いよね。」と提案すると福岡・長崎・神戸などでは空いている市営住宅の提供を始めたと情報が入り「横浜でもやろう」と当局に提案し迅速に実行に移されたという具合です。

益城町、西原村では倒壊した家屋がそのままの場所が多く残っています

発災以降余震が続いていますが、被災地を訪問し復旧・復興に向けて出来ることや、行政・政治の動きを勉強したいという声も高まり、大西市長に聞いてみると、「時間が取れるならとにかく熊本に来て、見て、話を聞いて、震災とは何か、政治家に何が出来るのか、感じ取って欲しい。」とのことで、多忙な市長に迷惑をかけぬよう準備の上、訪問となりました。

準備に際しては、議員連盟の仲間である早田順一熊本県議、来海恵子合志市議、服部香代山鹿市議の三人に、移動のマイクロバス・訪問先の選定・交渉、さらには現地での道案内などすべてお世話になりました。

ちなみに現地での移動，訪問先への手土産などは人数割りしてひとり分が１１３０６円、熊本のホテル宿泊費が８３９０円、この合計を政務活動費として計上しました。飛行機代は貯めていたマイレージを活用し、現地での食事代はそれぞれの個人負担でした。

（次ページ以降は黒川市議によるレポートです。）

村長の指導力と村民との信頼関係が村の危機を救う。

ボランティアビレッジの片山広大君は横浜市戸塚区出身の東海大学生です

朝の飛行機で熊本空港に着くと、議員連盟の来海、服部両市議が迎えてくれました。

最初の訪問先は西原村役場です。内田康博副村長の話で感心したのは日置村長のリーダーシップです。地震の翌日から村長室を出て一階の係長デスクに移り、陣頭指揮を執られたそうです。東北の震災復興支援で東松島市に派遣した幹部職員４名と、同市が今回派遣してくれた震災時の経験が豊富な職員たちの的確な進言と村長の即断即決が非常事態に奏功したとのことでした。国や県からの支援を待たずに、次々に手を打てたのは、経験者の職員による行政機構の強化と、地域の情報を的確に捉えて対応してくれた消防団と住民の協力の賜物と感謝していました。

田んぼや道路を横切る断層は落差が２m近くありました

その後、西原村内の罹災家屋を視察するとともに本殿が潰れてしまった阿蘇神社を訪問しました。参道の馬肉コロッケ店店長の「神社の神様もそろそろ新しい家に住みたかったんでしょ。」とのジョークには逞しさを感じました。

若者パワーの頼もしさと終盤の役割を模索するボランティアビレッジ

夕方には崇城大学ボランティアビレッジを訪問して、運営代表の三城賢士さんと学生リーダーの片山広大君と西本早希さんに話を聞きました。

発災直後は、次々と届く支援物資の仕分け、宿泊のあてもなくやって来る若者たちへのテントの手配、必要な場所に必要な物資、人材、情報を届ける仕組みを、日々ニーズが変化する中で創り出して業務を回すことが主な役割でした。

現在は瓦礫の撤去作業や残りの物資の避難所への配布などが主な業務で、物資も人も減ってきて、夏休みを利用した学生ボランティアの割り振りなどが終わると、ここの役割も終了だろうとのことで、地域の市民団体とは少し距離を置きつつ、ビレッジ閉鎖後にこの絆を消さずに次につなげる検討を始めているそうです。

夜にはマニフェスト大賞を受賞された山本幸二前御船町長や早田熊本県議も合流し、復興の状況や行政・議員の役割などについて意見交換しました。

横浜市も熊本への支援活動を継続しています

地震の翌々日以降、横浜市から様々な支援物資が熊本へと出発しました。金沢区鳥浜町の備蓄倉庫からトラックに載せて、九州では高速道路が寸断されている状況下、黒川市議はどうか届きますようにと祈りながら次々とトラックを送り出しました。水缶３４万個、保存パン3.7万食、ビスケット２６万食、トイレパック４５万パック、給水袋１万枚が物的支援です。

人的支援は来春までに延べ５６８人。地震直後は消防局・水道局などが、その後は健康相談・障がい者支援・上下水道・建物被害認定調査・廃棄物収集・避難所運営支援・罹災証明発行などの業務の専門家が交代で派遣されています。横浜市営住宅の提供や、児童生徒の受け入れなども行っています。

金沢区鳥浜町にある備蓄倉庫から次々と熊本行きのトラックが出発

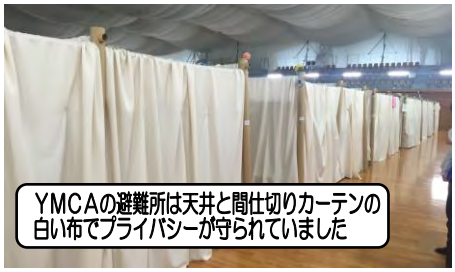
対照的なふたつの避難所を訪問 そこに正解はない

翌朝は、益城町の二つの避難所を訪問して話を伺いました。

益城町総合体育館は、以前から熊本ＹＭＣＡが管理・運営しており、地震の後も引き続き避難所の運営をしています。全国組織の利点を生かして、避難所運営の経験が豊富なスタッフが交代で来ては避難所生活がストレスなく過ごせるよう細かく配慮されていました。

金沢区からの応援スタッフを激励してまいりました

体育館の天井に布を張って温かい雰囲気を創り出したのはＹＭＣＡを支援するワイズメンズクラブのみなさんです。金沢八景ＹＭＣＡからも佐藤秦乃さんがスタッフとして活躍していました。今でも昼間は働き夜になると車で寝泊まりする人が、カゴなどを置いて駐車場の場所取りをしていました。


YMCAの避難所は天井と間仕切りカーテンの白い布でプライバシーが守られていました

天皇皇后両陛下が慰問された益城中央小学校体育館の避難所の運営リーダーは元町議会議員の中村女史です。

「最初の一週間はみんな自分たちのことで必死、次の一週間でやる気のある人材を次々に口説いてリーダーグループを作った。役割分担はせず、みんなが掃除も調理も何でもやった。昼間はカーテンも閉めず、語り合う場を作り、プライバシーの垣根を下げて家族的な運営を心がけた。いずれ仮設住宅に移るため、ボランティアも頼まず、自立に向けた生活を提供した。」力強く語る彼女の指導力がここの最大の特徴でした。

中村さんは避難所の肝っ玉母さんでした

対照的な２か所の避難所でしたが、それぞれの方針の下でしっかり運営されていました。

首長の覚悟と決断が住民の命を救う

益城町役場では西村博則町長が「疲弊する職員を休ませてやりたい、特措法が早く成立しないと財源が枯渇しつつある、地域で被災の度合いが違うため合意形成は困難だ。」と吐露してくれました。

西村町長にはお疲れのところありがとうございました

大西一史熊本市長は、パワーポイントの資料を作成して私たちを迎えてくれました。彼は首長の最大の仕事は危機の時の対応だと断言します。日々刻々と変化する状況における決断、仲間の首長との友情・信頼、最後は自分が責任を取る、反対があってもやる、そんな覚悟を聞かせてもらいました。

視察団の団長として大西市長と対面

澤田熊本市議会議長からは、議会活動は最小限にして、議員それぞれが地元で得意な手法や人脈を駆使して頑張っていたと聞きました。

今回の視察でわかったことは、刻々と変わる状況下で的確に決断し、組織を動かせる、リーダーの人間力が住民の命を守るということです。我が神奈川一区の松本純国家公安委員長・防災担当大臣とも連携し、370 万都市横浜の防災をあらためて考えてまいります。

谷津町の交通が便利に

国道１６号線の金沢文庫駅近く、谷津二の橋交差点では、国道に入る道が狭くて車がすれ違えずトラブルが頻発しています。そのすぐ先の斜め左に入って能見台五丁目に上がる踏切も幅が狭くて不便・危険です。

来年度着工の予定ですが、谷津二の橋の側道は川側に道路を拡幅し、踏切も用地買収して車がすれ違える幅に拡幅します。地域課題の解決で、より便利に住みやすくなります。

水辺環境をなるべく守る拡幅を要望しています

谷津二の橋交差点

谷津坂第5踏切

拡幅した後で抜け道的な利用を防ぐ工夫も必要です

横浜の道路・河川の現場を視察

環状北線の開通に際して日産スタジアムと連動したマラソンやウォーキングのイベントを提案しました

本年度、黒川まさる市議は建築・都市整備・道路常任委員会の委員長を拝命しました。人口減少社会に向けて、道路や橋梁の整備や維持管理、住宅政策や市街地整備の進め方には新しい発想が求められています。

まずは現場主義でと、自民党の有志の議員仲間で横浜市内の道路と河川を視察しました。

横浜の新たな生命線となる高速道路が誕生します

横浜環状北西線・北線が完成すると湾岸高速（大黒）首都高横羽線（生麦）第三京浜（港北）東名高速（青葉）をつなぎ、横浜の物流・交通・観光にとって飛躍的な便益をもたらします。工事が進む北西線では横浜市中小企業振興基本条例に則り、多くの市内事業者に細かく工事が分離分割発注されています。来春開通予定の北線では、シールド工法、換気所、高速道路下部の避難用道路など最新技術や安全対策を学びました。

高速道路のトンネル下部の避難用道路にはすべり台で降りていきます

見えないところで市民の安心安全を守ってくれます

帷子川は旭区から横浜駅付近までを流域とする河川です。上流部では警報装置や監視カメラとバイパス運河、中流域では鮎が遡上する魚道、直径１０ｍ長さ５キロの巨大な帷子川分水路トンネル、下流域では架け替え工事が進む鶴屋橋の現場を視察しました。きれいな水質や水辺環境を守るには地域の住民の協力が大切です。河川の氾濫や洪水を防ぐためには、巨額の国費や県や市の税金が投入されます。繁華街の橋の架け替えでは人々の往来を妨げない工夫も必要です。

新しい道路は経済効果だけでなく大災害時のバイパス機能も果たします。道路や河川の整備は一日も早く完成させて、維持管理・長寿命化については国や県からの権限の委譲を求めつつ、特別自治市を見据え、横浜市で一元管理すべきだと黒川市議は訴えています。

左の奥がシールドマシンです

分水路トンネルに一歩入ると冷気がひんやり

この日は大きな鯉が泳いでました

金沢区の中心市街地の魅力づくりのために今からやっておかなければならないこと

区役所周辺の国家公務員住宅の民間への払い下げが進んでいます。サニーマートなどのビルも老朽化して建て替えが近づいています。

この地域にマンションを建設する際には２階までを『商業や公的施設』と限定して、その分容積率を緩和するなど、区心部の『にぎわい・多世代居住』を促す地区協定や地区計画を策定し、子供たちのために２０万都市金沢区にふさわしい中心市街地を創っていこうと黒川市議は主張しています。

市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市会議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

返信FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp

.....

.....

.....

お名前・ご連絡先

ご意見をいただいた方にはお返事をさせていただきます。（住所・メールアドレス・FAX番号何でも結構です。）

黒川まさる市議の活動はホームページやネット放送の「やればできるテレビ」をご覧ください。フェイスブックやインスタグラムもほぼ毎日発信しています。毎年発行の１００ページを超える政務調査レポートブックも、数に限りはありますが進呈いたしますので黒川まさる政務調査事務所までお問い合わせください。